

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日 令和6年3月25日

法人名	園名
社会福祉法人 都台福祉会	認定こども園 都台こども園 小規模保育事業所 都台にこにこ園

全体平均 4.20

第2章第2節 乳児期の園児の保育	特定の大人との応答的な関わりを大切に、愛情豊かなに個々の発達を踏まえながら、探索活動を中心に保育を進めてきた。生活面では、離乳食から徐々に幼児食に移行できるよう配慮し、また心身共に未熟であるため、感染症対策にも心がけ配慮してきた。安全に配慮された環境の中で、個々の生理的欲求が十分満たされ、子どもが安心して生活出来るよう人的、物的環境を整え保育を進めてきた。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	友達への関心が深まり、一緒に過ごす楽しさや喜びを感じる一方で、双方の思いがぶつかり合うことも多く、自我の芽生えに寄り添いながら、保育者との安定した関係の中で、自分でしようとする姿を見守りながら適切な援助を心がけてきた。経験したことを簡単な言葉で表現する意欲を大切に、保育者の仲立ちのもと、言葉のやりとりを通して身近な人との気持ちを通わせることが出来るようになった。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	基本的な生活習慣もほぼ自立でき、知的好奇心も旺盛となり、集団的な遊びや協同的な遊びに取り組み、個の成長と集団としての活動が充実し、個々の自己肯定感を育めるよう遊びを深めてきた。生活習慣では、危険予知が難しく、善悪の判断や先を見通した行動が出来にくいことに課題が見られた。日々のサークルタイムを通して相手の気持ちを受け入れたり、課題を自分達で解決する姿が見られるようになった。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	子どもの発達が著しい時期であり、運動機能、身体機能も整う中で、少しずつ保育者の援助のもとで、自分でしようとする気持ちも芽生えてくる。また、自我も芽生え自己主張も激しく、受け止めてもらう経験を重ねながら、温かく見守り、愛情豊かに応答的に関わることを大切に保育を進めてきた。個々の発達に寄り添い、思いを尊重し、その子らしさを大切にしたい保育を目指してきた。
第3章 健康及び安全	子どもの健康や発達の状態の把握について、保護者からの情報と共に子どもの心身等に状態を観察し、密に連絡を取り合っている。児童虐待も、家庭支援課と連携を取りあって子どもの安全の確保にも努力している。アレルギー児の受け入れも、マニュアルの周知、徹底を行い、全職員で共通理解できるよう対応し、災害時の対応もマニュアルを通して緊急時の保育者の役割分担などを確認している
第4章 子育ての支援	子育てを園全体で支援できる体制づくりとして、保護者懇談会、子育て講演会を実施した。保護者同士の親睦をかねて、お互いに子育ての悩みを共有できる場を設定したり、専門講師の子育てのヒントを聞く講演会を通して、子育て不安の解消につながった。また、地域の子育て支援事業は、県の乳幼児子育て応援事業を実施し、年間48回の子育て広場をて提供し、未就園の子ども達や保護者の支援につなげている
第5章 職員の資質向上	自己評価に基づき、保育の質の課題に組織的に対応するため、各職員の必要な知識や技能を身に付けていけるよう、研修計画に基づき園内、園外研修を実施してきた。キャリアアップ研修や日本保育協会、兵庫県保育協会のオンライン研修に積極的に参加し、見逃し配信のある研修は、全職員が参加できるよう時間調整して、非常勤から正規職員すべての職員とともに園内で研修に参加できる体制を工夫してきた。
総合	コロナ過が明けて、行事の見直しを含めまた新たな保育の流れを模索しながら、特に今年度は子ども基本法が施工され、改めて「子どもの権利」について学びを深め、最善の利益を保障すべき保育のあり方を検証する一年となった。家庭養育が脆弱となり、保護者の価値観も変わりつつある中で、今後更に園が保護者の子育てを支援しながら、寄り添いながら家庭と連携し「共に育てていく」体制の構築が急務となっている。また、支援の必要な子ども達の増加により、人的、物的環境を整えながら、子ども達が安心して園生活を送れるよう、一人ひとりの個性や思いを大切にしたい保育の実践に引き続き努力を重ねていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.27
「3歳未満児保育」	31	4.39
「3歳以上児保育」	53	3.92
「教育保育の配慮事項」	16	4.31
「健康・安全」	29	4.10
「子育ての支援」	18	4.39
「職員の資質向上」	9	4.89
計	171	4.20

データグラフ

